

令和7年度「地域学校協働本部事業」 地域学校協働活動の取組事例

「コミュニティの拠点となる学校」(福島県富岡町)

取組の概要や経緯

「小中併設型・小中連携校 富岡小学校 富岡中学校」となり4年目。転入等により、徐々に児童生徒数も増加する中「コミュニティの拠点となる学校」を目指して、地域と学校が積極的に関わる活動に取り組んできた。



内容

- 学校支援活動
 - ・授業や行事での支援「校外学習の連絡調整」「部活動や授業中の学習ボランティア」
 - ・学校外での支援「夏休みサマースクール」
- 学校を核とした交流活動
 - ・余裕教室における公民館事業的な講座「エコクラフト」「音読教室」
 - ・校内で地域住民や保護者、教職員が自由に交流できる「地域交流タイム」を開催。



ポイント

- 学校からの要望等について、統括コーディネーターや推進員がパイプ役となり、地域の方々に協力を依頼し、学校を支援する。
- 月1回、校内で交流タイムを開催することで、地域住民等の縦横のつながりを広げ、人材のネットワークを拡充する。

成果

- 教職員のアンケートでは「行事だけではなく、総合的な学習の時間などの教科でも地域の方に協力・参加をしていただくことで、充実した教育活動ができていると感じる」といった好意的な回答があった。
- 地域交流タイムを9回実施し、延べ420人以上の方に参加いただき、児童生徒をはじめ地域住民や保護者、教職員の交流の場とすることができた。アンケートにおいても回答者の8割が地域交流カフェが交流の場として「非常に評価できる」という意見であった。

今後の方向性

- 地域と学校や地域住民同士の関係性をさらに深めるために、地域交流タイムを継続して実施するとともに、関係機関や団体と連携して生涯学習を伴うコンテンツを充実させる。
- 学校支援活動では、支援の流れなどを共通理解し進められるよう、システムを確立させ周知を充分に行い連携がスムーズになるように努めていく。